

茨城県結城市 栃木県小山市
栃木県産業労働観光部工業振興課 岩淵和也様

3班 コミュニティデザイン学科 古神会 榎 杉山翔
建築都市デザイン学科 中村 汐 植村まなつ
社会基盤デザイン学科 川上英史朗
グループ指導教員 丸岡正知 池田裕一

背景

結城紬とは、茨城県と栃木県にまたがる鬼怒川流域で作られる絹織物である。軽く柔らかく、温かいのが特徴で、生産工程の一部がユネスコ無形文化遺産に登録されている。
しかしながら、下の図1に示すように、結城紬は負のサイクルに突入しているため、産業が衰退の一途をたどっている。そのため、このサイクルを抜け出すための方法を考え、実践する必要がある。

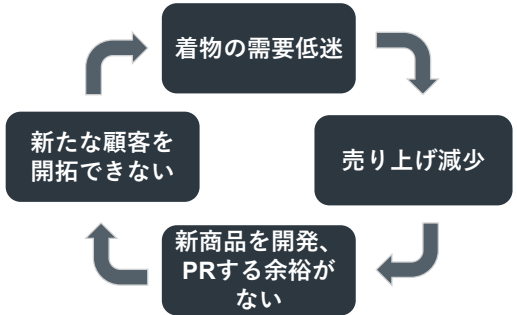


図1 結城紬が抱える負のサイクル

目的・活動内容

こういった背景のもと、私たちは、
①結城紬をよりたくさんの人に知ってもらう
②結城紬をはじめとした工芸品の良さを広め、生産地へ誘導する
といった2つの目的をもって、1年間活動した。
主な活動内容として、
①Instagramの継続的な投稿
②結城紬に関するイベントへの参加
③伝統工芸文化発信拠点の提案を行った。

方法

1st サイクル
現地見学を行って、結城紬の現状を把握し、課題を考えた。

2nd サイクル
マロニエプラザのイベントでワークショップを実施した。子供向けの内容で糸巻きアートを行った。Instagramの発信を行った。幅広い層に見てもらうために、結城紬の基本情報を主に発信し、英語の発信も行った。伝統工芸発信拠点の提案を行った。伝統工芸品を伝承していくために、拠点が重要なのではないかと提案をまとめ、地域パートナーと職人さんに向けて提案を行った。



写真1 糸巻きアートワークショップの様子

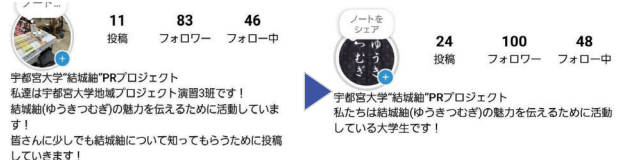


写真2 現地見学でのたたき染め体験

分析結果

昨年度までのInstagram発信の分析から改善

- ・アイコン写真がわかりにくい → 結城紬の文字を入れ、分かりやすく改善
- ・プロフィール文がわかりにくい → 一般の方向けの文章に改善
- ・Instagramの形式に合わない横長の写真投稿 → 正方形の形式に変更
- ・結城紬の工程の発信がメイン → 結城紬を知らない人向けに基本情報をポジティブに発信



今年度の分析

- ・フォロワー83人→100人
- ・投稿総数11→24

一般の方や海外の方に向けた投稿を作成したが、着物関係者の閲覧がほとんどであった。

昨年度

今年度

図2 昨年度と今年度の変化

工芸発信拠点“ライタク”の提案

通称:雷都匠工房

「直接触れる、工芸の玄関口に」

宇都宮の中心地において、十数種類ある県内の工芸品の歴史や魅力を、様々な体験を通して直接感じてもらい、工芸品の各生産地に誘導する。愛称“ライタク”。

・場所

2030年代前半の西側エリア延伸に合わせ、県庁前の旧栃木会館跡や沿線の空き地・空き家・古民家を活用して場所づくりを行う。

・活動

工芸品の良さを感じてもらう3つの体験

1. みる体験 【工芸品の展示】

県庁展望台での展示のように県内伝統工芸品を複数出品。常設のみならず、仮設展示も行うことで、何度も訪れて楽しめる場所に。

2. つくる体験 【体験ブースの設置】

工芸の制作過程の一部を体験できるブース。24年8月にマロニエプラザで開催されたイベントのブースに発展的要素を幅広く追加して規模を大きくする。

3. つかう体験 【宿泊施設の設備】

数室ではあるものの、宿泊できる環境も整備できればより良い。体験に一日費やしたり、数日に跨ったりすることで伝統工芸文化への没入感を増大させ体験をグレードアップする。

観光客だけでなく、工芸従事者にとっても意義のある場所に

1. 見学ブースの設置・新規人材育成

高度な制作過程を実際の職人さんが実演。実演者に実習生の立場の方々や工芸系の教育学校に通う生徒の方を起用し、新規人材の育成・実践の場としても機能させる。

2. 職人間の交流

様々な工芸品の職人さんが集まる「村」のようなシステムとなるため、各工芸の職人さんの交流、アイデアの融合なども期待できる。

・運営方法

職人さん、織元さん等工芸文化の提供サイドとテナント契約を結ぶ。四半期契約や半期契約から複数年契約まで様々な選択肢を用意することで、提供サイドの負担軽減のみならず、消費者側も変わりゆく工芸拠点の風景やイベントを楽しむことができる。

【全体を通して】

現地見学先の坂入染織店、坂入氏が仰っていたのは、「工芸士(職人)は、いくらでも『腕』を見せることはできるが、話が上手ではない」ということである。話を紡いで、文化を伝えていく立場を担うべきは若者であるべきだ。

当プロジェクトにおいて実践したInstagramでの宣伝、工芸品発信フィールドの提案を若者が主体となって発展、連携させるべきであり、その先に結城紬の魅力向上という結果があると考える。